

# Office Hour

## 働く人を訪ねて

働く人のこれまでの転機や大切にすることに迫ります。



第01回 なが た ゆき え 永田 幸江 さん **前編**  
特定社会保険労務士  
NIC 社会保険労務士法人 代表社員

「混沌としたカオスな感じが人事労務の世界にも通ずる」——特定社会保険労務士の永田幸江さんは笑顔で語る。この雰囲気が好きで、東京・赤羽に事務所を構えた。「私のルーツ」だという出身地・沖縄の八重山芸能と、赤羽が故郷のバンドのエレファントカシマシの歌、どちらも労働歌と愛してやまない。労働と縁が深い永田さんを訪ねた。

——現在の仕事内容について教えてください。  
現在は、社会保険労務士法人の代表社員として、社会保険の手続き、給与計算、就業規則の作成や変更、労務相談などの助言を軸にしつつ、人事・賃金制度、処遇制度などの設計や、そこに至

## 育休復帰が社労士への転機に

事課に弊社職員が常駐して窓口対応や、勤怠システム、打刻漏れなどのチェックをしています。

好きです。

そして、赤羽が好きになったから、エレファントカシマシが好きで、歌も大好きなんです。歌詞に「俺は働く、日々過

すため、くらしゆくため」とか、働く、っていう言葉がたくさん出てくる労働歌が多いんです。働くことで、自分の使命を果たそうとしているんだなっていうのがとても大好き

る職務分析などを行っています。特に、私立学校の労務管理に力を入れており、私学共済への社会保険の手続きの件数がほかの社労士法人よりも多いのが特徴です。

そして、関連する法人が2つあります。1つは、私立学校の人事労務の事務のアウトソーシングに特化した株式会社です。私立学校の人

そして、今年の3月からは、事業承継という形で学校法人の労務コンサルティングをする会社の代表職が加わりました。

——どうして赤羽に事務所を構えたのでしょうか。  
雰囲気がとても好きなんです。混沌としたカオスな感じが人事労務の世界にも通ずる部分があり、白黒つけられない雰囲気や人間臭さがとても

です。

私は「八重山芸能」を学生時代から今もやっていて、天の恵みに感謝して自然や神に捧げる奉納のための芸能なので、労働歌でもあるのですが、労働歌でもあって糧を得て、年貢を納めて、つらい時に楽しむため、歌ったり踊ったりしているのが私のルーツです。それが赤羽やエレカシに

つながり、私の働くときの基本につながっているんだなと思います。——社労士を志したきっかけはどのような出来事でしたか。  
中学生のときに父が

金を受けることができて、なんとか生活ができるようになった、高校も大学も行くことができた。社会保険に支えられた経験が大きいです。——これまでのキャリアで転機となった出来事がありますか。  
育児休業からの復帰が1つの大きな転機でした。大学卒業後は、社会人の資格取得や教育を支援する学校の運営会

社で営業をしていましたが、結婚、妊娠、出産をして、育児休業を取ることになりました。その後、復帰をしましたが、能力がない分を労働時間でカバーをするといった、今までと同じような働き方はできなかったんです。残業や土日の試験への動員など、そういった戦力から私は脱落しなければなら

も不安でした。

ただ、幸いにも遺族年金を受けることができて、なんとか生活ができるようになった、高校も大学も行くことができた。社会保険に支えられた経験が大きいです。——これまでのキャリアで転機となった出来事がありますか。  
育児休業からの復帰が1つの大きな転機でした。大学卒業後は、社会人の資格取得や教育を支援する学校の運営会

社で営業をしていましたが、結婚、妊娠、出産をして、育児休業を取ることになりました。その後、復帰をしましたが、能力がない分を労働時間でカバーをするといった、今までと同じような働き方はできなかったんです。残業や土日の試験への動員など、そういった戦力から私は脱落しなければなら

社で営業をしていましたが、結婚、妊娠、出産をして、育児休業を取ることになりました。その後、復帰をしましたが、能力がない分を労働時間でカバーをするといった、今までと同じような働き方はできなかったんです。残業や土日の試験への動員など、そういった戦力から私は脱落しなければなら

社で営業をしていましたが、結婚、妊娠、出産をして、育児休業を取ることになりました。その後、復帰をしましたが、能力がない分を労働時間でカバーをするといった、今までと同じような働き方はできなかったんです。残業や土日の試験への動員など、そういった戦力から私は脱落しなければなら

なった、使い物にならないんだなと思いました。

そんな中、この先のキャリアを考えたときに「手に職をつけたい」「力をつけたい」と思い、やっぱり社労士かなど。そして、過去には社会保険に支えられた経験もあるし、復帰はしたけれど、当時は子どもが1歳を過ぎたらフルで働かなければいけない頃だったので、働く環境を整える仕事という意味でも、やっぱり社労士をやってみたいと思い、社労士事務所に入りました。

——社労士を目指すために社労士事務所の門を叩いたのですか。  
門を叩き、そこでパートになりました。小さい子どもがいることを知って雇ってくれるところはなく、そこは女性の所長で、雇ってくださいました。6時間勤務をして、空いた2時間を勉強に充てるスケジュールで、2

000年からお世話になりました。また、「社労士を志しているんだよね」という意味での叱責もあり、生ぬるい環境から、本当に厳しい環境に身を置くことになりました。今後の目標に迫ります。」

000年からお世話になりました。また、「社労士を志しているんだよね」という意味での叱責もあり、生ぬるい環境から、本当に厳しい環境に身を置くことになりました。今後の目標に迫ります。」